

ZEN

全道展機関紙

NO.14

全道展機関紙 "ZEN" 第14号 昭和60年4月15日発行

発行所 全道美術協会 事務局 〒063 札幌市西区山の手3条11丁目

後藤庸也方 T011 (631) 1602

印 刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501

編集委員 青木 淳子 大地 康雄 坂口 清一

藤島 清士 小野寺紀子 斎藤 洋人

佐藤 靖



全道展は昭和二〇年

創立以来、今年で丁度
四〇年という節目を向かえるのであるが、創
立会員二十二名は発足

當時、みな三〇歳台で

あつたといふことであるが感無量である。

疎開していた作家達、あるいは本道画壇の

若き獅子達が当時の北海道画壇の現情を憂い
新らしく全道展を生みだすべく東奔西走した
陣痛の様子や、創立にいたる情熱や、意欲
や、愛着などがいつも語られてことある毎に
伝えられているが、これはあたかも祖母より
孫が家のルーツや昔話を繰り返して聞き乍
ら精神的な安らぎを覚えるのと同じような気
がする。

四〇周年記念全道展に向けて

事務局長 後藤庸也

また創立間もない頃の仲間達の取つて置きの楽しき話などは何回聞いても新鮮である。これは四〇年の歴史の中で、その根底に流れているものがみんなが、会の将来を案じながら、ひたすら全道展を愛し育て続けていることにも繋がっているのではないかと思う。

記念展が近づくにつれて各分担毎の会議も多くなってきたが、その中で必ずしも問題になることは審査の方針や内容についてであり、今年もしっかりと徹底して納得のいくまで話し合うということである。

出品者が精根傾けた作品であるから、見る側も美学や感覚の違いもあるが、現代は美術の評価は時代の欲求や流行などで価値感が

40周年記念全道展作品公募

■搬入 / 6月12日(水)・13日(木)

札幌市民ギャラリー

午前10時～午後6時

■会期 / 6月26日(水)～7月7日(日)
札幌市民ギャラリー

■主催 / 全道美術協会・北海道新聞社

●出品を希望する方は返信用切手60円を添え、応募目録用紙を^西060-19-札幌市中央区大通西三丁目北海道新聞社事業部全道展係に請求下さい。昨年の応募者には送付します。また有名画材店頭にも置いてあります。

■移動展開催地

旭川・中標津・斜里・釧路・帶広・根室・鶴川・美唄・函館

第27回学生美術全道展

搬入 / 9月15日(火) 札幌市民ギャラリー
会期 / 10月18日(金)～23日(水)

会場 / 札幌丸井今井デパート
搬入は、札幌市民会館です。応募用紙は、有名画材店又は^西060-19-札幌市中央区大通西三丁目北海道新聞社事業部全道展係へ返信用切手60円を添えて譲り下さい。

前年にひき続いで行なわれた昨年の釧路巡回展は、釧路展を開くようになつてから、十四回目の巡回展であった。第一回が昭和三十一年とあるからずいぶん前の話である。

毎回のこと乍ら、会場確保からのスタートであった。催事会場の少ない釧路の場合、前の年から各サークル等が、それぞれのスケジュールで繰り込まれているのでゆとりはない。それでも会場となる

会員 斎藤一明

■釧路展 ■



全道展巡回展奮戦記(4)

釧路

市民館側の配慮で、予定期間に前後の幅を持たせて頂いている。外からみえない部分だけに、そんな心づもりがうれしい。

悩みの種は資金づくりにも云えよう。市の助成金はあるものの、前年の出品者も含め全員での広告集め、巻売りに奔走する。誰しもが制作とは縁のない氣の重い仕事である。

「これさえなければ」とつい口に出るそれは、正直に云つて本音である。

昨年の巡回展は、巡回作品に地元出品者の作品を加え、一〇二点の展示となつた。

三つの会議室をぶち抜いての会場は、きゆうくながら、それなりに作品が収まるのも不思議である。実行委員会のメンバーである一般出品者の労に背がけが多い。そう云う意味では、寄りあつての手作り会場とも云えるだろう。

展示終つていつも聞かれる言葉は、受賞作品が少ないと云うことだつた。それは出品者も含め、地元の一般の方々にとって、より身近かな関心事でもあるからだろう。巡回展のありかたそのものは、例年変りを見ない。マンネリとは

云えないまでも、毎年開催の場合、入場者数の頭打ちにもつらなかつては、賞候補作品をも加える事にいる。これは一つの試案なのだが、会友推薦、一般受賞、場合によつては、賞候補作品をも加える事により、巡回展の新鮮さと活力を合わせ持たせる事ができるだろう。

なにはとも、会期中の入場者は、一三五〇人。前年よりわずかの減をみたものの、土曜日、日曜日の両日、地元会員による作品講評会には熱心な多くの出席者をみる。全道展の作品は判らないと云われた一時期からみると、心待ちしてくれる愛好者がふえてることもうれしい事である。

バックナンバーの図録が幾冊も出たと云うことは、その裏付けともされるだろう。作品搬出には、札幌より遠路池田会員に来て頂き、無事積込みをおえる。いつも乍ら一番ほつとするときもある。

回を重ねて今年も又、巡回展の準備にかかるとしている。地味ではあるがこうした積み重ねが、制作することも含め、なにかの問いかけの糸口にでもなつてくれたたらと願いながら。

エルミタージュ美術館展7月13日(土)~8月22日(木) 北海道立近代美術館

ざんしんアザイン
良いのが製品

株式会社 ねやん額縁店
札幌市狸小路5丁目 TEL 251-9000

緑の空中庭園に囲まれた
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
札幌大同生命ビル TEL 241-8271 内88

印刷の美を、私達は考えます

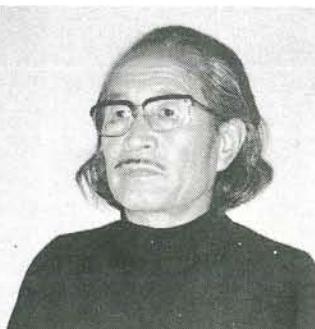
中西印刷株式会社
札幌市東区東苗穂町505番地 ☎ 011(781)7501

わが思索と行動



-作画考・断片-

谷口 一芳



芸術は人為による表現で、永遠にむかう創造の研究である。自然からのものではない。この表現には心と技がからみ、その作品は知覚する人に、感情移入を経て、心に快感や和らぎを享樂させたいためにあると思う。

私は画家として造形的表現のため経験や思考していることのいくつかにふれてみる。創造する行為のはじまりは、つねに新しい発見をしたいことで、瞬時のひらめきによるとか、ながい熟考の末からすめる

構成があり、色彩を平面上に秩序づけて、どのような様式で飾るのか、悩みながらの迷路にさまよっているのが実状で、創造は永遠につづく行為の旅であると解している。

私は戦友を失い、故郷が外地となり、苦しい衣食住事情のことなど、物心両面にわたって終生忘ることのできない戦後の体験を経た。これが私の生き方、思想に大きく影響をもたらしたことと思う。

が、最初と最後では意外な方向に展開することが多い。

× × ×

の啓示をうけ、また、すべての新しい発見は、模倣の分解から発想するバリエーションによることの多いことも知った。

× × ×

人は、自然なしでは生活ができない。画家も自然と大宇宙に相対して、そこから学び知識と経験によって発想を練り、豊かに発展させることができる。自然は神の啓示をもたらす源泉である。

× × ×

美術は時代とともに多様なイズムの興廻を繰り返し、いまは単なる美的なできごとではなく、新しいフォルムを創造し、新しい表現をしようとする探索で、その発見のためにとどまるこのない運動ですんである。

× × ×

創造した行為は、個展することによって、より主張が明確になる。団体展よりも個展をとよく開くが、どちらにも長短がある。団体展からも逃避することなく大海で泳ぐことも自己をみつめるにいところだ。

もうすぐ二十一世紀を迎える。自己の思想をこめて生きてきた証を、より成熟させた作品をもって残したい。

「美術は見えるものを再現するのではない、見えないものを見るようにする」の名言がある。虚構の中に真実をもとめて試行錯誤し、次の展開を期待する。思索と行動は不離一体、日常時のことだと思つていい。

まさに制限のない自由の時代を迎えてい

平和と自由を得たよろこびは、前がまえだけに大きく、つぎに絵を描くよろこびを得て、自然を描写することに動機などの必要性はなく、感動という衝動行為のみであった。

やがて全道展、春陽会展に出品し、そこで未知の世界にふれ、絵画の思潮を注視、自然描写から脱皮する模索がはじまった。

パウル・クレーの「正しい眼をやしない、また腕を磨くために、自然主義的な作品を描いては、独創的な線を少しも発揮できない」ということは、想像力と独創性へ

重を原点とする平和の道で、人類の目標だと思う。これは全てに通ずる思想で、私は制作意図の大好きな柱として作品にいろいろな心象形態で暗示してきたし、これからも飢餓大陸も、このバランスの欠けた一つである。

この自然環境保護の思想こそ、生命の尊重大胆な発想で、たたかえる造形様式が開放されたが、対応できる実験を自分史にくみいれることができるか。冒険なきところに未知の世界を開くことはできない。その精神なきものは自滅の道をたどることであろうから。

一方、科学技術の進歩は想像以上で、ハイ・テクの時代は、芸術の分野にも大きく影響をもたらし、ニューメディアは世界の境界をとりはらいファンタジックの世界が生れるのも夢ではないようだ。

どう対応すべきことやら、機器によるものは、ヒントやデーターとして利用すべきであろうが、人の手作業による魂や感情移入などは考えられないことだし、科学は人の興味にもつながること、共存すべきことである。

× × ×

油絵
酒井 俊行39回展協会賞受賞
旭川市西神楽3線
5号 3~3675彫刻
二部 黎39回展道新賞受賞
小樽市銭函2-34
-3彫刻
内 健39回展佳作賞受賞
札幌市中央区南14
条西18丁目

全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし

もう二十年前になるが日高の高校を出て就職のため札幌に出た年に初めて④デパートで本展を観た。壁面を埋め尽くす作品群に目を見張った。「いつか自分の絵をここで見るぞ」と内心闘志を燃やしていた。それから十年後、途中道草をしたり職業も変わり、ようやく本格的に絵に取り組む気持ちも出来て初出品。これが見事に落選の憂き目に合い「何で落選なのだ」と一人地団駄踏んで悔しがったものだった。それ以降は入選を続けることができ昔の夢が果せた。おまけに昨年は協会賞まで受け大いに面喰つた。

今年も雪溶けのシーズンとともに全道展への作品づくりにからなければ頭を一杯にしている。昨年突如やつて来た靈感のようなイメージがいつも頭にこびりついて離れることなくウジウジと考え続けている。

連作のできない性分の私にとっては確かなイメージが見えて来ないとなかなか筆を取り気になれば、いつもでも執行猶予の状態が続く。こんな優柔不断の私にとっては迫る搬入〆切日は死刑執行人のようなので救いになっているようだ。この原稿が活字になる頃は恐らくキャンバスを汚しながら「神様の云う通り……」などと一人呪文を唱えながら苦しんでいるだろう。

当地旭川からの出品者も年毎に増えているようだ。熱っぽい個性をひっ下げてまた集つてくるだろう。私も身支度をして戦列に加わりたいと願っている。

全道展が何なのか、私は多くは知らない。強い者だけが生き残るコロッセウムなのか、大いなる群れに連なる心優しき人々の、眞の強者の群れなのか――。眞の強者は自からが恐れおののく弱者であることを知つている。

原始、人は自からの存在に恐怖する。絶やすことなく守り続けたがが火は、背に闇を焼きつける。獲物を追いつめ、人々は歓喜する。信じられぬ勇気に導かれ、叫び、走り、組みつき、凱戦する。けれども人々は知っていた、暗がりに消え入りそうな炎が、一人一人の内面をのぞきこむ夜のことを、どんなに獰猛な野獸でさえ、底なしの沼地からはいあがつてくるような、生存の恐怖を追い払えはしないのだということを。

果実をもぎ、穀物を捨て、夕暮れ時黙ってそれらを喰う時、人はまた自己の内面をのぞきこむ。恐れ、寄りそいひとときわ炎を大きくして、目を自己から仲間へ移そうと努める。

内なる声に耳を傾けて生きている時、ふと蟻地獄に落ちていくよう何だったんだろう、私が見てきたのは。わからぬままに人生の半ばを越え、再び全ての源へとどく仏陀の世界へ旅する。過去にあったことは今あり、今あることはきっと未来にある。

太古から人は群れた。小さき者、老いた者傷つき倒れた者達を囲んで、

優しい生き物さえ加えて人々は群れた。群れは自然から弱者を守り、彼自身のわきあがる存在の恐怖からも彼を守った。群れは、人のみでなく、あらゆる生命あらゆる存在はただ一つの大いなる群れであると、教え統てきた。私の源への求道の旅はそこへ向い、そしてそこからまた旅立

現代の彫刻家は、このような自然に内在する力のうごめきを確かめながら、それを自己の内部感覚と同一化してゆくのである。このような造型精神はギリシャに通じる精神ではないだろうか。

現代芸術は多様化し、まさに混乱の時代である。もう一度、歴史と環境を見つめ直し、自分の位置をしっかりと確かめなければならないと思う。

現代の彫刻芸術は、具象的なものであれ、非具象的なものであれ、強いオブジェ感を通して自己を見つめなおす仕事から始まっている。それは作家の内部感覚とでも言えるものである。

全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし

自分の絵を見ていると、なかなか楽しくて気持ちいいのですが、自分だけにとどまるかもしれないのに、全道展に出品させてもらいました。反応が、ありがたい方へ帰つたのでたいへん喜んでいます。

ばく然と絵をかいてますと、あーでもないこうでもないと、ぐだぐだ考えてしまうたちなので、全道展に出品するという目的ができますと、ある程度の緊張感を持つて、作品に向かえます。入浴の結果を持つのは、なかなかスリリングです。六畳ひと間の狭い部屋で、100号もの絵を描くなどということは、日常生活では、まったく不自然なことですが、公募展だと、並の大きさになってしまいますというのが、やはり魅力であります。

そうです。自分で、すばらしい作品だと思っていても、でかい会場で、でかい作品の中におかれると、なんとも自分の作品が、かすんでみえてきます。その中で「目立つ絵をかいてやるぞ」というエネルギーがわいてきて、また、新しい自分を発見できますし、自分にもだんだん厳しくなれます。

そんなわけで全道展に出品を続けたいと思います。

全道展を通して、自分をふくらましていきたいと思っています。

作品を審査するのは全道展ではありますが、最終的にはすべて自分ですから……。

自分の絵を見ていると、なかなか楽しくて気持ちいいのですが、自分だけにとどまるかもしれないのに、全道展に出品させてもらいました。反応が、ありがたい方へ帰つたのでたいへん喜んでいます。

ばく然と絵をかいてますと、あーでもないこうでもないと、ぐだぐだ考えてしまうたちなので、全道展に出品するという目的ができますと、ある程度の緊張感を持つて、作品に向かえます。入浴の結果を持つのは、なかなかスリリングです。六畳ひと間の狭い部屋で、100号もの絵を描くなどということは、日常生活では、まったく不自然なことですが、公募展だと、並の大きさになってしまいますというのが、やはり魅力であります。

油絵
杉吉 篤



39回展会佳作賞受賞
札幌市中央区北6条西26丁目第1土田荘

油絵
石原 佑一



39回展会佳作賞受賞
函館市鍛冶1丁目25-16

工芸
伊藤 啓子



39回展会佳作賞受賞
札幌市新琴似6条11丁目1-19

有形無形の諸先輩の言動の中から自分を補うべき術を体得し、制作意欲を高めています。絵画することは、自分の気力と体力との孤独な闘争です。遅すぎた観はあるが、今私は、街のある人を見るとだれもが“絵を描く人だなあ”と思うくらい心の中で絵画するようになりました。発表の場も全道展、行動展、道教職員美術展、個展と目標をきめています。今回からは、150号の大作に取り組んでいます。せまい部屋での制作なのでキャンバスの動きがとれません。制作時間や経費が相当かかるので、慎重に構図や画面処理にあたっています。私のモチーフは一貫して室内風景です。これからは野外での動きのある人間の生活を描きたいと思っています。四十周年記念展に向って、多くの全道展先輩仲間はがんばっていることでしょう。私自身の年齢も四十、大きな節目です。一年に一度の展覧会なのですからしっかりした作品の制作に踏ん張る私です。

楽しみながら、織り始めた日から、少しづつ新しい試みを加えて来た、テクニックらしきものと、目に見えないイメージを、ふくませながら、ふと今、考える時、諸先生の、何げなく言つて下さった言葉が頭の中を、かきみだしたり、励みになつたりした時に、気が付きます。諸先生の作品に対する、姿勢、執着心を、見、聞きするにつけて、この全道展の大きいなる刺激を大事にそして、自身を、もっと客観的に見つめ、さらに自身の糧となる場として、かかわって行きたいと考えています。

ここには年代を越えて芸術に取り組む全道展仲間の姿があるからです。思えば、第八回全道学生展での初受賞が全道展での結びつきであった。その時は、自分の作品を会場で直視することができず、何かしら不安であった。それから十九年の歳月が流れ、なんと貴重な歳月を何事にも出来なかつたことであろう。自責の念で一杯である。

今、全道展では、大きな節目の四十回展をむかえようとしています。全道展で神田日勝、北川豊氏らのすばらしい作品群に触れ感動したこと、も記憶している。そして、私は何度か全道展での落選を苦渋したことか定職のかたわら絵筆を握る私ですから、長く生きて長く絵を描き続けることを目標にしています。六年前郡部から函館に在住し、私の生活のリズムも変りました。

全道展で神田日勝、北川豊氏らのすばらしい作品群に触れ感動したこと、も記憶している。そして、私は何度か全道展での落選を苦渋したことか定職のかたわら絵筆を握る私ですから、長く生きて長く絵を描き続けることを目標にしています。六年前郡部から函館に在住し、私の生活のリズムも変りました。

織、と言ふものを介して、自己表現が、どこまで出来るか、そして自分の存在を確かめる為の、一つの手段として、私の全道展出品が始まりました。八年間の出展を通して、就師した人も無く、ただ夢中で明け暮れて来たように思います。時には腕が動かなくなつたり、自己嫌悪に落ち入つたり、物を創り出す苦しみを味わい乍らも、初夏の風と共にやつてくる公募展に、今年は、どんな作品に会えるのかと心ときめかして来ました。年毎に厳しさも解りはじめ、次々に発表される、多数の作品の群に、立ちすくんでしまいそうな恐怖を感じるのも事実です。

楽しみながら、織り始めた日から、少しづつ新しい試みを加えて来た、テクニックらしきものと、目に見えないイメージを、ふくませながら、ふと今、考える時、諸先生の、何げなく言つて下さった言葉が頭の中を、かきみだしたり、励みになつたりした時に、気が付きます。諸先生の作品に対する、姿勢、執着心を、見、聞きするにつけて、この全道展の大きいなる刺激を大事にそして、自身を、もっと客観的に見つめ、さらに自身の糧となる場として、かかわって行きたいと考えています。



全道展新年会 60.1.8 共済サロン

会も半ばになり、渡会、嵐会員が四十周年に対する所感を述べ、なこやかな中にもビリッときてしまった一場面もあり、後半は国松会員の「こばなし」を皮切りに、全道展の淡谷のり子こと佐々木悦子さんの雄大なる歌をはじめスターたちの歌合戦がひとしきり続きました。そしていよいよ終幕抽選券で品物が当ると言うことで心なしかみんなの顔が緊張気味、このたびはオーラー画材、大丸、道新のご好意でプレゼントの品が沢山届き、出席者全員にもれなく当りました。番号をよみあげると、目を輝やかせながら走ってくる姿を拝見して、プレゼントを渡しながら、とても楽しく、愉快な気持ちになり、時間を忘れるほどでした。

川田静子、北野敬子、国松登、小関恵久子、後藤庸也、佐藤哲夫、佐久間恭子、坂口清一、坂口美津雄、坂原チエ、桜田栄治郎、佐々木悦子、佐々木梓子、佐藤説庫、佐藤靖、嶋倫子、杉浦篤子、砂田友治、砂田陽子、諷訪英雄、関川菊代、高原範子、瀬戸節子、相馬康安、高橋靖子、高畠晶子、高陽子、竹岡羊子、田中ヨミス、田部隼夫、谷口一芳、玉村拓也、坪野秀子、寺崎源治、柄内忠男、中丸茂平、中村静枝、成田幸子、中村礼子、二部静世、野本醇、長谷川順子、久守昭嘉、菱和子、平間正造、藤井正、藤島清士、本田泉、本田明二、三上博子、矢下瑛子、山崎澄恵、矢元政行、横田恵子、横山昭子、米谷哲夫、渡会純介、渡部重夫、石塚絹、羽山欣周、青木淳子。

さまたたどころで、しめくくりに竹岡和田男さんのきたんのないご意見を含んだごあいさつをうかがい、ひたすら制作にかける情熱を胸に新年会も終わりとなりました。この後、「はせ川」で二次会がありましたが、ここでもユーモアたっぷりの自己紹介などがあつたり、全くの初顔合わせで、話がはずんだりで、本会とはまた違った雰囲気で大変楽しく過すことが出来ました。

全道展40周年 記念会員小品展

85 / 60, 2月4日(月)~9日(土)

時計台ギャラリー全室

札幌市中央区北1条西3丁目(時計台文化会館内)

さわしい会場構成となりました。全体にすっきりと細部にまで心配りのある会場になったことをつけておきたいと思います。

その後、在札会員やわざわざこの日のために来られた各地の会員と共に、時間の許すまで和やかに懇親会を持ちました。

小品展案内状は、市内の主なギヤラリーにも置き、全会員や会友を39回展の一般入選者にも発送いたしました。

期間中には、連日の様に会員の作品鑑賞にたくさんの人があふれ後半には札幌雪まつりの日程とともに重なって、大変なにぎわいでした搬出も滞りなく終わり、事務局係り一同ほっとしたところです。

ここに、会員の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

出品会員は次の通り。

記念会員小品展は、八十八人の出品で二月四日（月）から九日（土）まで時計台ギャラリーの全室を使用して、盛大のうちに開催されました。

さわしい会場構成となりました。全体にすっきりと細部にまで心配りのある会場になったことをつづけておきたいと思います。

その後、在会員やわざわざこの日のために来られた各地の会員と共に、時間の許すまで和やかに親睦会を持ちました。

小品展案内状は、市内の主なギヤラリーにも置き、全会員や会友とも39回展の一般入選者にも発送いたしました。

期間中には、連日の様に会員の作品鑑賞にたくさんの人があふれ、後半には札幌雪まつりの日程とともに重なって、大変なにぎわいでした。搬出も滞りなく終わり、事務局係り一同ほっとしたところです。

ここに、会員の皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

東政雄、嵐玲子、池田正之助、工塚貴羊史、伊藤聰、遠藤未満、土地康雄、大友一夫、小川原脩、野垣哲之助、鎌田選之助、鎌田俊、捺子、川瀬敏夫、神田一明、神田一郎、比呂子、岸本裕躬、北浦晃、木村訓丈、木村良、国松登、熊谷善一、小関恵久子、後藤庸也、昆勢津二、斎藤洪人、坂口清一、坂原チエ、佐久間恭子、佐藤哲夫、三箇三郎、新覚吉郎、砂田友治、瀬戸英樹、

外山ムツ子、高野次郎、高野政大、高橋要、高橋三加子、竹内豊、竹岡羊子、谷内丞、谷口一芳、徳橋本三郎、長谷川忠男、原義行、久守昭嘉、福井正治、藤井正治、伏木田光夫、本城義雄、前野辰吉、宮西詔路、八木保次、八木伸子、柳悟、山口惣市、米谷哲夫、（監修）画出品、浅野武彦、大井戸百合子、大本靖、大森亮三、尾崎志郎、波谷栄一、玉村拓也、寺崎源治、藤島清士、森ヒロ子、渡会純介（監修）刻出品、秋山沙走武、伊藤寿朗、岡沼淳一、小野寺紀子、斎藤一明、萬竜明、中江紀洋、本田明二、（監修）芸芸出品、折原久左右門、佐藤靖、関原範子、田部隼夫、山岡三秋、山岡将秋

(佐藤
靖記

伏木田光夫、本城義雄、前野昌平
宮西詔路、八木保次、八木伸子、
柳悟、山口惣市、米谷哲夫、(監
画出品 浅野武彦、大井戸百合子
大本靖、大森亮三、尾崎志郎、池
谷栄一、玉村拓也、寺崎源治、藤
島清士、森ヒロ子、渡会純介(監
刻出品 秋山沙走武、伊藤寿朗、
岡沼淳一、小野寺紀子、斎藤一明
葛竜明、中江紀洋、本田明二(工
芸出品 折原久左工門、佐藤靖、
関原範子、田部隼夫、山岡三秋、
山岡将秋

仲間のたより

● 全道展の古い仲間、栗橋徳一氏が此度、室蘭市立病院の下に焼肉レストラン、加留美亭を開業しました。来蘭の折り、御利用下さい。

● 室蘭・浅山咲知 旭川より出品者の平間文子さんの長男39才、3月1日なくなり、親として何と悲しいことと思います。元気を出されて制作されることを影ながら望みます。残されたご家族のこれからのご健闘を祈ります。

● 美術芸術に深く愛ある人でした

旭川・高橋 要

● 今年は雪が沢山降った冬だった。アトリエの庭に作ったバーデーテーブルにやつて来る小鳥達も必死の生死の戦いの日々が続いた。沈黙する樹々と小鳥と自分が純白の世界に閉じこめられる毎日が続いた。先輩であった故上野山清賀のチユーリップを描いた作品を観た。欲も得もなく、とにかく純粹に内面の燃焼のある作品だつた。樹々や小鳥達が良く見えるようになつたら、もう五十才だ、上野山は偉い人だと思う。

札幌・伏木田光夫

● 全道展発足の頃のこととどうしても思い出せることがあります。昨夜、三雲、三碧りさんに電話をかけました。久しぶりのことなので何と三十分ぐらいも話しました。あの頃の友だちの噂などは私どもの年になるとそんな話は楽しいです。

● (仲間のたより) とし戴せるには失礼かと思われるが、田中忠雄先生のたまり、「先日お忙いところ、私の回顧展において下さって感謝の至りです。始めてのこと乍らゆづくりお話してきて嬉しいことでした。昨日旭川へ行く前に個展を拝見するつもりでしたが、どうして時間がとれず失礼しました。明日帰京致します。五十九年九月十一日 歌志内・本城雄

● 去る一月十四日から十九日まで東京、函館にて個展を開催しました。二月中旬から一ヶ月ヨーロッパ十カ国を巡りました。三月十三日に帰国。帰国後、国展、全道展員展の制作並びに八月十九日から二

度、室蘭市立病院の下に焼肉レストラン、加留美亭を開業しました。来蘭の折り、御利用下さい。

● 室蘭・浅山咲知 旭川より出品者の平間文子さんの長男39才、3月1日なくなり、親として何と悲しいことと思います。元気を出されて制作されることを影ながら望みます。残されたご家族のこれからのご健闘を祈ります。

● 美術芸術に深く愛ある人でした

旭川・高橋 要

● 今年は雪が沢山降った冬だった。アトリエの庭に作ったバーデーテーブルにやつて来る小鳥達も必死の生死の戦いの日々が続いた。沈黙する樹々と小鳥と自分が純白の世界に閉じこめられる毎日が続いた。先輩であった故上野山清賀のチユーリップを描いた作品を観た。欲も得もなく、とにかく純粹に内面の燃焼のある作品だつた。樹々や小鳥達が良く見えるようになつたら、もう五十才だ、上野山は偉い人だと思う。

札幌・伏木田光夫

● 全道展発足の頃のこととどうしても思い出せることがあります。昨夜、三雲、三碧りさんに電話をかけました。久しくぶりのことなので何と三十分ぐらいも話しました。あの頃の友だちの噂などは私どもの年になるとそんな話は楽しいです。

● (仲間のたより) とし戴せるには失礼かと思われるが、田中忠雄先生のたまり、「先日お忙いところ、私の回顧

● 東京・菅野充造 制作と今度は特に多忙の年になりそうですね。又年の全道展の回数が今度に届いておらず、再三の催促にもかわらず事務局のズサンさんから怒りを感じて居ります。

● 札幌で木村忠太の展観があった筈だが一向にその反響をきかない、一般人が知らないのは当然だがその道の人間の間でも話題にもならなかつたのか、キムラのファンとして一寸残念だ。実はこれを持つて来たのが知り合いで画商なので営業成績も少し気になる。パリのクリーフルと云う画廊がキムラを始め小生好物の

● 室蘭・高野次郎 フサロ、コタホを扱って居り何時でも店にあるのとこの界隈で画廊街で日動、吉井の支店も近いので毎週の様に出かけて精神的栄養としたのを思い出します。絵を描くということは、或る一定の距離をもつことなのだと、これが歌志内・もりやはじめ

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽しい季節です。野幌原生林を歩きまわっています。最近自然保護の関心がたかまりつありますが、北海道の自然も現在のままで、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方面も同じかも知れません。自然のバランスがくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしいことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐



十四日まで札幌時計台ギャラリー個展の制作と今度は特に多忙の年になりそうですね。又年の全道展の回数が今度に届いておらず、再三の催促にもかわらず事務局のズサンさんから怒りを感じて居ります。

● 札幌で木村忠太の展観があった筈だが一向にその反響をきかない、一般人が知らないのは当然だがその道の人間の間でも話題にもならなかつたのか、キムラのファンとして一寸残念だ。実はこれを持つて来たのが知り合いで画商なので営業成績も少し気になる。パリのクリーフルと云う画廊がキムラを始め小生好物の

● 田中忠雄先生のたまり、「先日お忙いところ、私の回顧展において下さって感謝の至りです。始めてのこと乍らゆづくりお話してきて嬉しいことでした。昨日旭川へ行く前に個展を拝見するつもりでしたが、どうして時間がとれず失礼しました。明日帰京致します。五十九年九月十一日 歌志内・本城雄

● 川上澄生版の盜作賛作に注意。創立会員川上澄生氏の没後懽らげた版画八十点余の額表展が、苦小牧某大型店で二十日四日から開かれた。白黒版は澄生の雅号印を無断で捺したという盜作もの、有色版画の色つけは息子の不盡の手による贋作であった。川上氏の直弟子であった浅野武彦氏と共に主催者不盡氏と共に、会期半ばで中止してもらつたが、この

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽しい季節です。野幌原生林を歩きまわっています。最近自然保護の関心がたかまりつありますが、北海道の自然も現在のままで、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方面も同じかも知れません。自然のバランスがくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしいことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方面も同じかも知れません。自然のバランスがくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしいことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽しい季節です。野幌原生林を歩きまわっています。最近自然保護の関心がたかまりつありますが、北海道の自然も現在のままで、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方面も同じかも知れません。自然のバランスがくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしいことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気に

ふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気にふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気にふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気にふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。これは寒や知床方

面も同じかも知れません。自然のバランス

がくずれてしまつたのでしょうか。

と回復できないことを考えたら恐ろしい

ことです。

江別・手島圭三郎

● 上ようやく陽差しも強くなり、一気にふくらむ雪解けの季節。身をかくして耐

● 堅雪になる今頃は一番山歩きが楽し

い季節です。野幌原生林を歩きまわって

います。最近自然保護の関心がたかまり

つあります。これは寒や知床方面も現状の

までは、年々やせ細っていくようです。

● 野幌原生林内でもかってのような巨木は育たないようです。

個展グループ展案内

- 森谷一 OKINAWA 小品展
4月中、砂川市十字街コーヒーのはし
 - 高橋要個展
4／15～4／20 札幌・時計台ギャラリー A、B室
 - 国松登展
4／13～5／12 北海道立近代美術館
 - 羽山欣周油絵個展（収穫シリーズ後の黄昏のテーマを一度ふり返ってみたいと思います）
4／29～5／4 札幌大同ギャラリー
 - 全道展帯広支部展
5／12～5／18 帯広うけか和画廊
 - 越谷賢一個展（スイッチ・オンのシリーズで、アルミ板に刷った150号と100号を中心に）
5／13～5／18 札幌・時計台ギャラリー
 - 佐藤忠良個展
5月末～6月末 東京銀座
 - 在道独立作家展
7月頃予定
 - 大地康雄油絵個展
7／22～7／27 札幌・時計台ギャラリー
 - 杉吉篤個展
7／9～7／14 札幌・ギャラリー・ユリイカ
 - 戸沢正義個展
7／29～8／3 札幌・時計台ギャラリー B室
 - 第14回彫刻家集団「北斗会」展（秋山沙走武ほか）
8／1～8／6 函館丸井今井 4F ギャラリー
 - 三箇三郎個展
8／5～8／10 東京銀座・文芸春秋画廊
 - 瀬戸英樹展（アドリア海からバイエルンの旅）
8／15～8／20 函館丸井今井 4F ギャラリー
 - 北海道陶芸会新作展（山岡三秋ほか）
7月頃予定
 - 山岡三秋新作陶芸個展
8月頃予定
 - こぶ志一門展（山岡三秋ほか）
9月頃予定
 - 二部静世個展（「ふぶきの家のノンコ、挿絵原画・油絵）
9／16～9／21 札幌大同ギャラリー
 - 森谷一個展
9／30～10／5 札幌・時計台ギャラリー
 - 原義行個展
11／26～12／1 札幌・丸画廊

●一九八一年ロダン美術館展での鄉帰賢の人生の大半をみて、その道で行くまでの道ですが、新作展を今春、東京で行いますので、その後の佐藤忠良の養えをさらすことになるかも知れないと、気の重いことです。

東京・佐藤忠良

ラザに開設しました。初心者、習得者はかかわりなく、制作の場として活用できるようにしました。地方の方もご利用下さい。

● 九月初めから半年程の予定で、アメリカに行つて来ます。西海岸から入り、ロサンゼルス、サンフランシスコを回つて、シカゴを通り、主にニューヨークに滞在して、向こうの現代美術に直に触れてきたいと思っています。

- 札幌銅版画研究所を、札幌アートードで華させたいと目下体調を整えつゝがんばっています。
- 新しいアトリエでの制作は、気持ちの良いものですが、肝腎の絵の方はさぱり捲らずイライラする毎日です。今後こそ個展をとと思っていますがどうなりますか…。
- 苦小校・高橋正延すか…。

美酒を飲めるよう頑張りたいと意気込んで、今作ります。

西館・伊藤 聰
● 昨年秋、母の葬儀の際には多數の方々のご参拝をいただき有難うございました。心から御礼申しあげます。

札幌・斎藤洪人
十回記念展では、知事實をいただき、愛妻とよろこびをわからち合った想い出もあります。妻が亡くなつて一年が過ぎます
が、彼女との出会いも全道展でした。(第二十七回展)今年の全道展には、亡き妻のため、真四角なキャンバスに自分の愛情をこめてかいていきたいと思います。

● 会友になつて十何年、ずつと练习続けてきました。昨年、「悩む少女達」を描きました。あなたの学校の生徒ですか? ""先生ってこんな目でしか生徒を見れないのね。""とか、主题のむずかしさに又、考え方込んでいます。出品して二十年、燃を正してがんばります。

全道展・図録・ZEN等への意見要望・質問など

風磨の心象
国松 登展
全道展創立会員

4月13日(土)－5月12日(日)
北海道立近代美術館

「心象に生きる—私の道」講師 国松 登氏
4月21日(日)午後2時~4時 当館講堂

- 全道展開催の度に思うことがひとつあります。長年出品していると、こんなことを思う者もいるということです。出品料の中に図録と招待券数枚分の代金を含めては如何でしようか。勿論、その分値上げは仕方ありません。出品すれば、必ず図録は買いますし、ボクのようでは知己の少ないものでも、見てほしいとすむ人達も數人はいるのですから…。ボクの出している中央展の場合は、招待券、割引券を入落の通知に同封してくれます。ご一考下さい。
- 札幌・堀川 勉
四十回展会場が隈々まで生氣あふれる作品で充满している。そして鑑賞者がため息をついている。これ夢ではない。現実の話、よし、みんな頑張ろう。
- 札幌・池田正之助
今年の四十周年図録は今年より早く送つていただきたいと思います。
- 川崎・大高 操
編集御苦労様です。特にありませんけれども、図録にカラーなんかが入りますと、きれいになるな、なんて思います。
- 札幌・田陽子
全道展の搬入出の指定業者を複数にしたら良いと思います。独占だとサービスが悪くなるし、現行動展で東京に出品するより高い料金を取られるので不思議に思つてゐる。
- 函館・三箇三郎

<p>お知らせ、お願ひ</p> <p>● 昨年十二月、創立会員田中忠雄氏が毎日愛賞を受賞されました。統いて、道立近代美術館主催の「55北海道の美術」で会員ヒロ子氏が優秀賞を受賞心よりお慶び申上げます。</p> <p>● 住所、電話番号、呼称変更と転居の方、事務局までご連絡下さい。</p>
<p>住所</p>
<p>電話番号・呼称変更と</p>
<p>転居</p>
<p>浅山 咲知</p>
<p>石塚貴羊史</p>
<p>〒〇五〇 登別市美園町五 丁目三五一一二</p>
<p>○ 〇一四三八（六）八八二</p>
<p>小闇恵久子</p>
<p>〒〇六四 札幌市中央区南 二〇条西九丁目二一三五</p>
<p>○ 〇六四一二四 札幌市西 区福徳二条五丁目一六六一</p>
<p>大地 康雄</p>
<p>四四 四〇四一〇五 魚田郡恵 山町恵山三七五</p>
<p>四〇一三八（八五）二五五</p>
<p>萬 龍明</p>
<p>干場 良光</p>
<p>一 〇六〇 札幌市中央区北</p>

お知らせ、お願ひ
● 昨年十二月、創立会員田中忠雄氏が、
毎日芸術賞を受賞されました。統いて、
道立近代美術館主催の「北北海道の美術、
『水』で会員森ヒヨ子氏が優秀賞を受賞。
心よりお慶び申上げます。
● 住所、電話番号、呼称変更と転居の
方、事務局までご連絡下さい。

● 昨年十一月、創立会員田中忠雄氏が毎日芸術賞を受賞されました。統いて、道立近代美術館主催の「55北海道の美術、『水』で会員森ヒロ子氏が優秀賞を受賞心よりお慶び申し上げます。

方、電話番号、呼称変更と転居の方、事務局までご連絡下さい。

住所
転居
電話番号・呼称変更と

石塚貴羊史
元〇五〇 登別市美園町五
丁目三五一一二

浅山 哀知 二〇一四三八(六) 八八一

小関恵久子
〒〇六四 札幌市中央区南
二〇条西九丁目二一三五
〒〇六四一二四 札幌市西

區稻穂二条五丁目一六六一
四四
元〇四一一〇五 亀田郡恵

山町字恵山三七五
一〇一三八(八五)二五五

干場 良光
〒〇六〇 札幌市中央区北
三条東五丁目岩佐ビル三F
リト・スタジオ スプラツ

高橋
要
シユ
一〇七〇 旭川市末広町東

七 云 一六六 (五二) 四八六

全道展に關するお問い合わせは次の所へ。
・全道展事務局（〒〇六三札幌市西区
山の手3条11丁目☎〇一（六三一）
一六〇二 後藤庸也）
・北海道新聞社事業局文化事業部全道
展担当（〒〇六一九札幌市中央区大通
西三丁目☎〇一（三二一）二一一